音羽通信

令和８年６月５日 第４号
文京区立音羽中学校
文京区大塚１丁目９番２４号

言葉がつくる学校

生活指導主任 根本道代

先日の運動会では、天候にも恵まれ、多くの保護者の皆様にご来校いただき、温かいご声援をありがとうございました。生徒たちは競技や応援、係活動など、それぞれの立場で力を尽くし、仲間と協力しながら取り組む姿を見せてくれました。勝敗の結果だけではなく、目標に向かって努力することの大切さや、仲間と支え合うことの喜びを実感できた行事になったのではないかと思います。

運動会を振り返る中で、特に印象に残ったのは、生徒たちが交わしていた「言葉」です。「頑張れ!」「大丈夫!」「ありがとう!」「一緒に頑張ろう!」こうした前向きな言葉が、仲間を励まし、背中を押し、学年やクラスの絆を深めていました。競技中だけでなく、準備や片付けの場面でも自然と声を掛け合う姿が見られ、言葉のもつ力の大きさを改めて感じました。

言葉には、人を勇気づけたり安心させたりする力があります。何気ない一言で元気になった経験は、誰にでもあるのではないでしょうか。その一方で、言葉は使い方によって相手を傷つけてしまうこともあります。発した本人に悪気がなくても、受け取る側にとっては深い悲しみや苦しみにつながる場合があります。

今月は「ふれあい月間（いじめ防止強化月間）」です。学校では、生徒一人一人が安心して過ごせる環境づくりを目指し、いじめの未然防止や人間関係づくりについて考える取組を進めています。その中で大切にしていることの一つが、「相手を大切にする言葉を選ぶこと」です。中学生の時期は、友人関係が広がり、仲間との関わりがより深くなります。だからこそ、言葉の影響も大きくなります。「冗談だった」「そんなつもりではなかった」という言葉で済まされるものではありません。同じ言葉でも、人によって受け取り方は異なります。大切なのは、自分の気持ちだけでなく、相手の立場や気持ちを想像することです。

また、近年はSNSやオンライン上でのやり取りによるトラブルも少なくありません。顔が見えず、表情や声の調子が伝わらないため、思いがけない誤解や傷つきにつながることがあります。文章を送信する前に、「この言葉を受け取った相手はどう感じるだろうか」と一度考える習慣を身に付けてほしいと思います。

いじめを防ぐために、特別なことをする必要はありません。「ありがとうを伝える」「相手の話を最後まで聞く」「困っている人に声を掛ける」「相手の良いところを認める」。こうした日常の小さな行動の積み重ねこそが、安心できる学級や学校をつくる土台になります。そして、もし友達がつらい思いをしていることに気付いたときには、見て見ぬふりをせず、信頼できる大人に相談する勇気も大切です。運動会で見られた仲間を励ます温かい言葉や支え合う姿を、これからの日常生活にもつなげていきたいと考えています。一人一人が相手を思いやり、温かな言葉を交わすことで、学校はさらに安心できる場所になります。学校では今後も、生徒たちが互いを尊重しながら成長できる環境づくりに努めてまいります。

◆ ◇ ◆ ６月の行事予定 ◇ ◆ ◇

１日（月）ふれあい月間始・振替休業日	１８日（木）定期考査Ⅰ（国語・美術・技術家庭）
５日（金）歯科健診・教育実習終	１９日（金）定期考査Ⅰ（社会・英語・音楽）
８日（月）生徒朝会・安全指導	学校運営協議会
１年八ヶ岳移動教室保護者説明会	２２日（月）３年領域診断テスト・避難訓練
１２日（金）３年修学旅行保護者説明会	２４日（水）専門・中央委員会
第１回進路説明会	２６日（金）２年音羽公開講座
１５日（月）全校朝会	３０日（火）学校関係者評価委員会
１７日（水）定期考査Ⅰ（理科・数学・保健体育）	ふれあい月間終